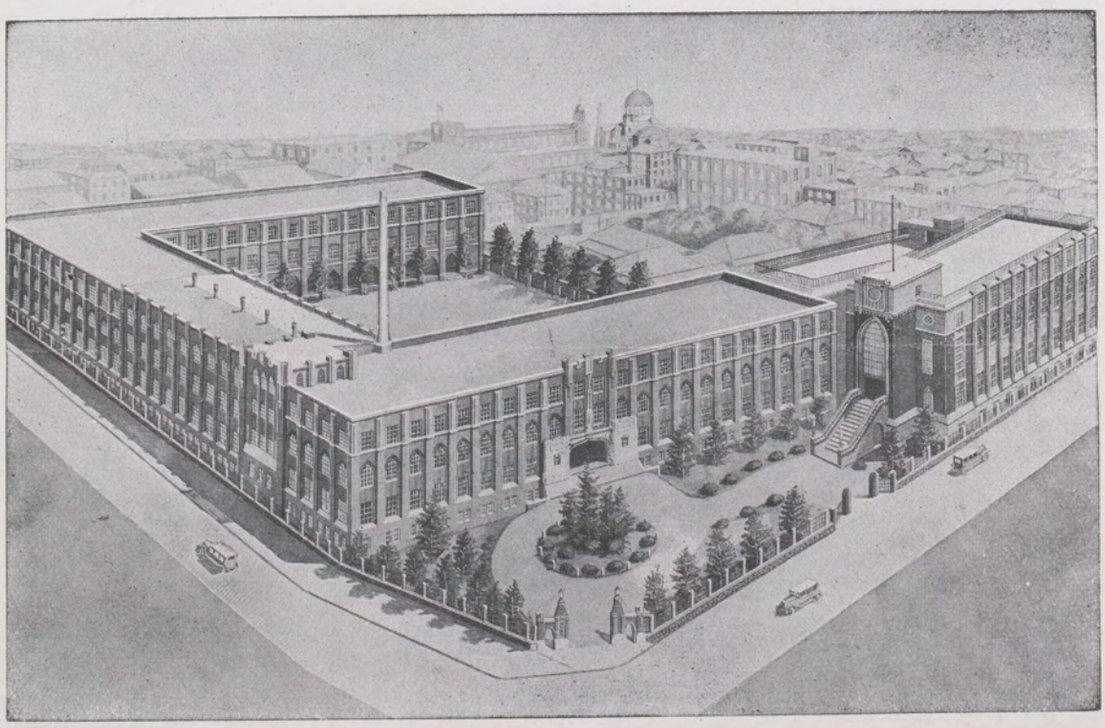
中央大學學則

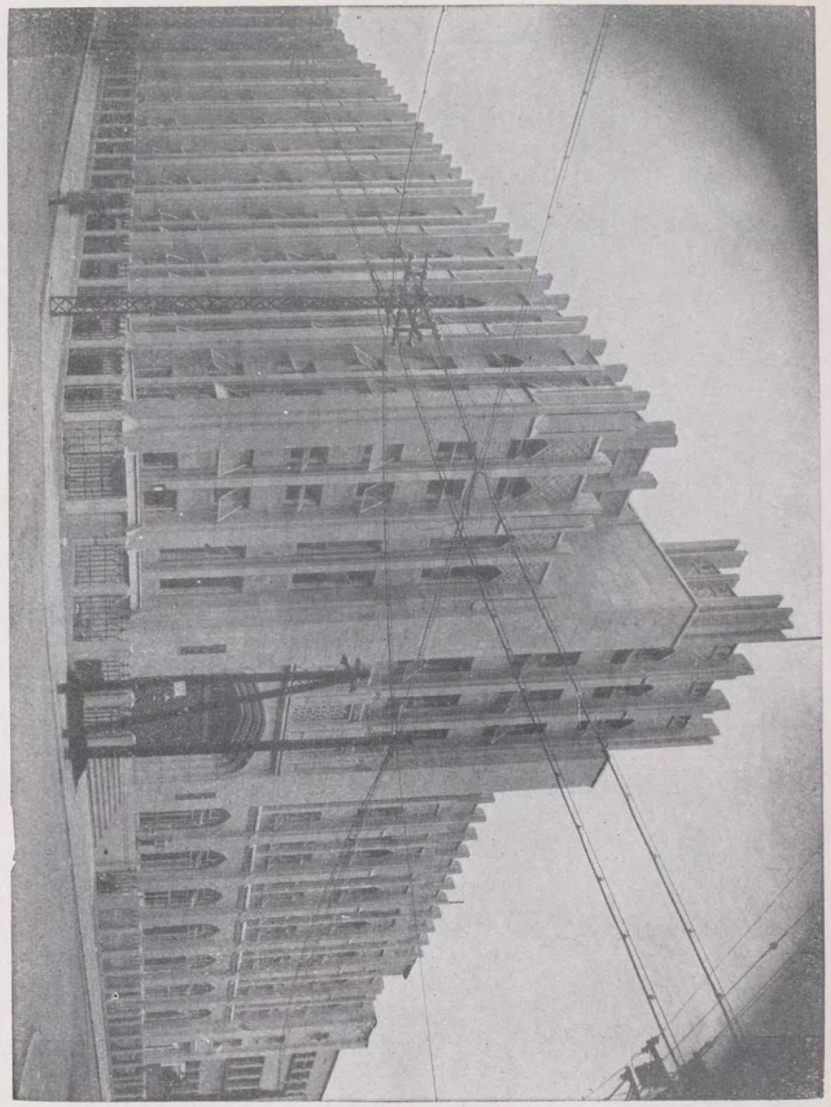
大學部
大學豫科
專門部

中央大学学則 : 大学部大学予科専門部　1939(昭和14)年2月



中央大學校舍

中央大学学則：大学部大学予科専門部　1939(昭和14)年2月



堂講念記年周十五立創

中央大學學則

第一章　總則

第一條　大學ハ法學、經濟學、政治學、商學ニ關スル學術ノ理論及ヒ應用ヲ教授シ竝其ノ蘊奥ヲ攻究セシムルヲ以テ目的トス

第二條　大學ニ法學、經濟學、商學ノ三學部及ヒ大學院ヲ設ケ豫科ヲ附置ス

第三條　學部ハ晝間部、夜間部ノ二部ニ別ツ
豫科ハ晝間部、夜間部ノ二部ニ別チ晝間部ヲ第一豫科トシ夜間部ヲ第二豫科トス

第四條　學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第五條　休業日ハ左ノ通トス但シ必要アリト認ムルトキハ臨時休業スルコトアルヘシ
四月一日ヨリ十五日ニ至ル
七月十六日ヨリ九月十日ニ至ル
十二月二十六日ヨリ翌年一月七日ニ至ル
日曜日
大祭祝日

中央大学学則：大学部大学予科専門部　1939(昭和14)年2月

大學記念日（七月八日）

第六條　學部ニ所定ノ期間在學シ且其ノ配當科目全部ノ試驗ニ合格シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

轉學ニ因リテ學部ニ中途ニ入學シタル者ニシテ其ノ屬スル學年以後ノ所定ノ期間在學シ且其ノ配當科目ノ全部ノ試驗ニ合格シタルモノハ前項ニ定メタル所定ノ期間在學シ且其ノ配當科目全部ノ試驗ニ合格シタルモノト看做ス

第十條ノ規定ニ依リテ修學シタル隨意科目ノ試驗ニ合格シタル者ニハ請求ニ依リ其ノ科目ノ合格證明書ヲ交付ス

第七條　學部ヲ卒業シ卒業證書ヲ授與セラレタル者ハ其ノ學部ニ從ヒ法學士、經濟學士、商學士ト稱スルコトヲ得

第二章　學部

第八條　學部ノ修學期間ヲ三學年トス

第一節　學科課程

第九條　各學部ノ學科課程、其ノ配當及ヒ授業時間數左ノ如シ

第一　法學部

第一學年			第二學年			第三學年		
科目	毎週授業時間數		科目	毎週授業時間數		科目	毎週授業時間數	
必修科目								
民法總論	三		憲法	二		行政法各論	二	
物權法第一部	二		行政法總論	二		會社法	二	
債權總論	三		物權法第二部	二		手形法	二	
親族法	二		債權各論	三		保險法	二	
刑法總論	三		相續法	二		海商法	二	
經濟學	二		商法總則 商行爲法	二		民事訴訟法第六編以下	二	
外國法（英）（獨）	六	六	刑法各論	二		民事演習	二	
			民事訴訟法第一編	二		刑事演習	二	
			民事訴訟法第二編乃至第五編	二		外國法（英）（獨）	四	四
			刑事訴訟法	三				
			民事演習	二				
			刑事演習	二				

中央大学学則：大学部大学予科専門部　1939(昭和14)年2月

	外國法（英）（獨）	四

必修科目中外國法ハ入學ノ始ニ於テ英法、獨法ノ一ヲ指定シ屆出ツルコトヲ要ス

選擇科目

法制史	二	
社會學	二	

國際公法	二	
刑事政策	二	
法制史	二	

法律哲學（法律學史ヲ含ム）	二	
國際私法（共通法ヲ含ム）	二	
破產法（和議法ヲ含ム）	二	
財政學	二	

選擇科目ハ學年ノ始ニ於テ第一學年第二學年ハ一科目、第三學年ハ二科目ヲ選擇シテ屆出ツルコトヲ要ス

隨意科目（選擇科目中自己ノ選擇セサル科目及經濟學部、商學部ノ各科目ハ第十條ニ依リ隨意科目トシテ修學スルコトヲ得）

外國語	二	
倫理學（東洋）	二	

外國語	二	
倫理學（西洋）	二	
經濟政策	二	

外國語	二	
倫理學（東洋）	二	
社會政策	二	

第二 經濟學部

第一學年		第二學年		第三學年	
科目	毎週授業時間數	科目	毎週授業時間數	科目	毎週授業時間數

必修科目					
經濟原論	四	經濟學史	二	工業政策	二
經濟史	二	銀行論	二	交通政策	二
經濟地理	二	農業政策	二	社會政策	二
貨幣論	二	商業政策	二	財政學	二
統計學	二	外國爲替及關稅	二	東洋經濟事情	二
植民政策	二	政治史及外交史	四	保險學	二
簿記原理	二	財政學	二	政治學	二
外國語經濟書（英又ハ獨）	四	西洋經濟事情	二	經濟演習	二
社會學	二	經濟演習	二	外國語經濟書（英又ハ獨）	二
民法（總則・物權）	四	外國語經濟書（英又ハ獨）	二	商法（會社・海商・手形）	四
		憲法	二		
		民法（債權）	二		
		商法（總則・商行爲）	二		

選擇科目

中央大学学則：大学部大学予科専門部　1939(昭和14)年2月

科目	毎週授業時間數	科目	毎週授業時間數
配給組織論	二	證券市場論	二
日本經濟史	二	會計學	二
經營學	二	應用簿記	二
佛蘭西語經濟書	二	佛蘭西語經濟書	二
哲學	二		
		佛蘭西語經濟書	二

選擇科目ハ學年ノ始ニ於テ一科目ヲ選擇シテ屆出ツルコトヲ要ス

隨意科目（選擇科目中自己ノ選擇セサル科目及法學部、商學部ノ各科目ハ第十條ニ依リ隨意科目トシテ修學スルコトヲ得）

科目	毎週授業時間數	科目	毎週授業時間數
倫理學（東洋）	二	倫理學（西洋）	二
親族法	二	行政法總論	二
刑法	二	相續法	二
		國際公法	二

高等學校高等科教員無試驗檢定希望者ハ行政法（總論、各論）、親族法、相續法及刑法ヲ必ス履修スヘシ

第三　商學部

第一學年 科目	毎週授業時間數	第二學年 科目	毎週授業時間數	第三學年 科目	毎週授業時間數
必修科目					
簿記原理	二	會計學	二	原價計算	二
商業數學	二	銀行會計	二	會計監査	一
經營學	二	應用簿記	二	貿易實務	二
商品學	二	外國爲替及關稅	二	企業金融論	二
配給組織論	二	取引所論	一	經營事務管理	一
經濟原論	二	倉庫經營論	一	保險學	二
貨幣論	二	廣告論	一	財政學	二
統計學	二	景氣變動論	一	交通政策	二
商業史	二	商業政策	二	會計演習	二
植民政策	二	銀行論	二	經營演習	二
商業英語	二	演習（外國書）	二	商業演習	二
民法（總則・物權）	四	商業英語	二	商業英語	二
		憲法		商法（會社・海商・手形）	四
		民法（債權）	二		

中央大学学則：大学部大学予科専門部　1939(昭和14)年2月

		商法(總則・商行爲)	二
選擇科目			
東洋商業事情	二	西洋經濟事情	二
經濟地理	二	證券市場論	二
外國語經濟書(獨又ハ佛)	二	外國語經濟書(獨又ハ佛)	二
經濟史	二		
		社會政策	二
		工業政策	二
		信託論	一
		工業所有權法(特許、實用新案及商標ヲ含ム)	二

選擇科目ハ學年ノ始ニ於テ第一學年第二學年ハ二科目、第三學年ハ三科目ヲ選擇シテ屆出ツルコトヲ要ス

隨意科目(選擇科目中自己ノ選擇セサル科目及法學部、經濟學部ノ科目ハ第十條ニ依リ隨意科目トシテ修學スルコトヲ得)

倫理學(東洋)	二	倫理學(西洋)	二
社會學	二	行政法總論	二
親族法	二	相續法	二
刑法	二	國際公法	二

高等學校高等科教員無試驗檢定希望者ハ行政法(總論、各論)、親族法、相續法、刑法及經濟史ヲ必ス履修スヘシ

第十條　學年ノ始ニ於テ關係學部長ノ許可ヲ受ケ其ノ學部又ハ他ノ學部ニ屬スル授業ヲ隨意科目トシテ修學スルコトヲ得

第二節　入學、休學、退學及ヒ除名

第十一條　入學ヲ許可スヘキ者左ノ如シ

一　豫科卒業者

二　高等學校高等科卒業者又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等ノ學力アリト認メタル者

三　舊大學部卒業者及ヒ專門部卒業者但シ大正七年文部省令第三號第二條第二號ニ依リ指定セラレタル者ニ限ル

四　同等學校ノ豫科卒業者及ヒ專門學校卒業者但シ大正七年文部省令第三號第二條第二號ニ依リ指定セラレタル者ニ限ル

第十二條　同等學校ニ於テ第二學年以上ニ在學シ轉學スル者ハ相當ノ學年ニ編入スルコトヲ得但シ學科課程

中央大学学則：大学部大学予科専門部　1939(昭和14)年2月

中他ノ大學ニ於テ修了セサル科目アルトキハ其ノ科目ニ限リ試驗ヲ行フ

第十三條　入學ノ許可ヲ請フ者ハ入學申込書ニ履歴書ヲ添ヘ差出スヘシ但シ試驗ヲ要スル場合ニハ同時ニ受驗料金五圓ヲ納ムヘシ

第十四條　入學期ハ學年ノ始トス但シ第十二條第二十二條第二項又ハ第二十三條ノ規定ニ依リテ轉學又ハ再入學スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　入學ノ許可ヲ得タルトキハ直ニ保證人ト連署シテ在學證ヲ差出スヘシ

第十六條　保證人ハ成年者ニシテ東京市又ハ其ノ隣接市町村内ニ於テ獨立ノ生計ヲ立ツルモノナルコトヲ要ス

保證人ハ本人在學中ニ係ル一切ノ事項ニ付其ノ責ニ任スヘキモノトス

第十七條　保證人死亡シ又ハ前條ノ要件ヲ缺キタルトキハ遲滯ナク之ヲ改定シ更ニ在學證ヲ差出スヘシ保證人ノ變更アリタルトキ亦同シ

保證人住所又ハ氏名ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第十八條　疾病其ノ他止ムヲ得サル事故ニ因リ滿二箇月以上修學スルコト能ハサルトキハ其ノ事實ヲ證スル書面ヲ添附シ保證人連署ノ上其ノ許可ヲ受ケ當該學年間休學スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ休學シタル者休學ノ事由止ミタルトキハ保證人連署ノ上許可ヲ受ケ原級ニ入リ修學スルコトヲ得

第十九條　給費生、貸費生ハ休學ノ月ヨリ其ノ資格ヲ失フ

第二十條　陸軍、海軍ノ現役ニ服スル者及ヒ召集中ノ者ハ其ノ期間第十八條ニ準シテ休學シ滿期後直ニ原級ニ復スルコトヲ得

第二十一條　疾病其ノ他ノ事故ニ因リ退學セントスル者ハ保證人連署ノ上屆出ツヘシ

第二十二條　左ニ掲クル者ハ學籍ヨリ除名ス

一　學業劣等又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ成業ノ見込ナシト認メタル者

二　出席常ナラサル者

三　何等ノ事由ヲ以テスルニ拘ラス引續キ一個年間闕席シ又ハ正當ノ理由ナク一個月以上闕席シタル者

第二十三條ノ規定ハ前項ニ依リテ除名セラレタル者ニ之ヲ準用ス

第二十三條　第七十五條、第七十六條ノ規定ニ依リ退學處分ヲ受ケタル者四個月以上ヲ經過シ改悛ノ情顯著ナルモノト認メタルトキハ特ニ再入學ヲ許スコトアルヘシ

第三節　試驗

第二十四條　試驗ハ學年ノ終又ハ授業ヲ終リタル際之ヲ行フ

必要アルトキハ追試驗及ヒ再試驗ヲ行フ、追試驗又ハ再試驗ヲ受クル者ハ一科目ニ付受驗料金壹圓ヲ納ムヘシ、五科目以上ナルトキハ受驗料金五圓ヲ納ムヘシ

中央大学学則：大学部大学予科専門部　1939(昭和14)年2月

第二十五條　試驗ノ方法ハ筆記又ハ口述トス

第二十六條　試驗ノ成績ハ各科目ニ付甲、乙、丙ヲ以テ表示シ甲、乙ヲ合格トシ丙ヲ不合格トス

第二十七條　授業ヲ受ケタル科目ニ非サレハ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

休學シタル者ハ其ノ學年ニ屬スル試驗ヲ受クルコトヲ得ス但シ第二十條ニ定メタル休學者ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條第二項ニ該當スル者ハ其ノ休學取消ノ承認ヲ得テ試驗ヲ受クルコトヲ得

第二十八條　或科目ニ付三個年以內ニ試驗ニ合格セサル者ハ全部合格ニ至ルマテ在學スルコトヲ得但シ六個年ヲ超ユルコトヲ得ス、試驗ヲ受ケスシテ在學スル者亦同シ

在學六個年ニ滿ツル者其ノ最後ノ學年試驗ノ追試驗又ハ再試驗ヲ受ケムトスルトキハ許可ヲ受ケ前項但書ノ規定ニ拘ラス其ノ追試驗又ハ再試驗ノ施行ヲ終ル迄ノ期間在學スルコトヲ得

第十二條ノ規定ニ依リテ入學シタル者ニ付テハ其ノ入學シタル日ニ至ル迄ニ要スヘカリシ期間在學シタルモノトシテ其ノ在學期間ヲ計算ス

第二十二條又ハ第二十三條ノ規定ニ依リテ再入學シタル者ニ付テハ其ノ除名中又ハ退學中ニ屬スル期間ヲ其ノ在學期間ニ通算ス但シ學年ノ始ニ於テ第一學年ニ入學シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條　隨意科目ノ試驗ハ希望アル場合ニ限リ之ヲ行フ

第三十條　試驗ハ授業料ヲ完納シ且必要ナル受驗料ヲ納付シタル者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

第四節　學費

第三十一條　入學ヲ許可セラレタル者ハ入學料トシテ金五圓ヲ納ムヘシ

第三十二條　授業料ハ一學年金百拾圓トシ左ノ三期ニ之ヲ納ムヘシ但シ特別ノ事情アル者ニ限リ月額金拾圓宛ノ分納ヲ許スコトアルヘシ

第一期　四月(金四十圓)

第二期　九月(金四十圓)

第三期　一月(金三十圓)

第三十三條　學年ノ中途ニ入學シ又ハ退學スル者ハ特ニ入學前及ヒ退學後ノ授業料ヲ免除ス

休學中ハ授業料ヲ免除ス

第三十四條　在學中ハ闕席シタルトキト雖モ授業料ヲ免除セス

第三十五條　納付シタル授業料ハ返付セス

第三章　大學院

第三十六條　入學期ハ學年ノ始トス但シ時宜ニ因リ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第三十七條　大學卒業者ニシテ大學院ニ入ラントスルモノハ特ニ研究事項ヲ具シ其ノ許可ヲ受クヘシ

中央大学学則：大学部大学予科専門部　1939(昭和14)年2月

他ノ大學卒業者ニシテ大學院ニ入ラント欲スルモノハ前項ノ入學願書ニ學業履歴書ヲ添附シ當該學部ノ檢定ヲ受ケ合格スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ檢定料トシテ金十圓ヲ納ムヘシ

第三十八條　學長ハ學生ヲ指導スル教員ヲ選定スヘシ

第三十九條　學長ハ學生ノ爲メ特ニ講義ヲ開キ特別研究ヲ爲サシムルコトアルヘシ

學長ノ許可ヲ受ケ學生ハ各學部ノ講義演習等ニ出席スルコトヲ得

第四十條　學生ハ學年ノ終ニ於テ其ノ攻究ノ狀況及ヒ成績ヲ記載シタル報告書ヲ指導教員ヲ經テ學長ニ差出スヘシ

第四十一條　二年以上修學シタル者ハ其ノ攻究シタル學課ニ付卒業論文ヲ提出シテ學位ヲ請求スルコトヲ得

第四十二條　學生ハ攻究料トシテ學年ノ始又ハ入學ノ際ニ於テ一學年金六十六圓ヲ納ムヘシ

第四十三條　學長ハ學生中學力優秀心身健全ナル者ヲ銓衡シ特選給費學生ト爲スコトヲ得

特選給費學生ニハ二年以内月額金三十圓以上金七十五圓以内ノ學費ヲ給與ス但シ學長ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキハ年限ヲ延長スルコトヲ得

特選給費學生ハ學長ノ許可ヲ得スシテ他ノ業務ニ就クコトヲ得ス

學長ハ特選給費學生其ノ地位ニ適セサル事實アリト認ムルトキハ之ヲ免スルコトヲ得

特選給費學生ニハ第四十二條ノ規定ヲ適用セス

第四十四條　第十五條乃至第二十三條第三十三條第一項及ヒ第三十五條ノ規定ハ之ヲ大學院學生ニ準用ス

第四章　豫科

第四十五條　第一豫科ノ修學期間ヲ三學年トシ第二豫科ノ修學期間ヲ二學年トス

豫科ヲ卒業シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第一節　學科課程

第四十六條　豫科ノ學科課程、其ノ配當及ヒ授業時間數左ノ如シ

第一豫科

第一學年			第二學年			第三學年		
科目	毎週授業時間數		科目	毎週授業時間數		科目	毎週授業時間數	
修身	一	修身	修身	一	修身	修身	一	修身
國語、漢文	六	國語、漢文	國語、漢文	五	國語、漢文	國語、漢文	五	國語、漢文
第一外國語（英若ハ獨）	一〇	第一外國語（英若ハ獨）	第一外國語（英若ハ獨）	一〇	第一外國語（英若ハ獨）	第一外國語（英若ハ獨）	一〇	第一外國語（英若ハ獨）
第二外國語（英、獨、佛）	（二）	第二外國語（英、獨、佛）	第二外國語（英、獨、佛）	（二）	第二外國語（英、獨、佛）	第二外國語（英、獨、佛）	（二）	第二外國語（英、獨、佛）
歴史	五	歴史	歴史	五	歴史	歴史	二	歴史

中央大学学則：大学部大学予科専門部　1939(昭和14)年2月

地理	二	心理、論理	二
數學	二	數	
自然科學	二	自然科學	二
體操	二	體	

		哲學概說	二
		心理、論理	一
		法制、經濟	二
		體	
體操	二	操	二

第二外國語ハ隨意科目トス

第二豫科

第一學年		第二學年	
科目	毎週授業時間數	科目	毎週授業時間數
修身	一	修身	一
國語、漢文	五	國語、漢文	五
第一外國語（英若ハ獨）	一〇	第一外國語（英若ハ獨）	一〇
第二外國語（英、獨、佛）	（二）	第二外國語（英、獨、佛）	（二）
歷史	五	歷史	二
心理、論理	二	哲學概說	二

數學	一	心理、論理	二
自然科學	二	法制、經濟	四
體操	二	體操	二

第二外國語ハ隨意科目トス

第二節　入學、休學、退學及ヒ除名

第四十七條　入學ヲ許可スヘキ者左ノ如シ但シ外國人ニシテ之ニ相當スル學歷ヲ有スル者ハ第一豫科ニアリテハ中學校四學年終了程度第二豫科ニアリテハ中學校卒業程度ノ試驗檢定ノ上之ヲ許可ス

第一豫科

一　中學校四學年修了者

二　高等學校尋常科修了者

三　高等學校高等科入學資格試驗合格者

四　專門學校入學者檢定規程ニ依ル試驗檢定合格者

五　文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ檢定シタル者

六　文部大臣ニ於テ專門學校入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

中央大学学則：大学部大学予科専門部　1939(昭和14)年2月

第二豫科

一　中學校卒業者

二　專門學校入學者檢定規程ニ依ル試驗檢定合格者

三　文部大臣ニ於テ專門學校入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

第四十八條　左ノ各號ノ一ニ該當シ第一豫科第一學年科目ノ試驗ニ合格シタル者ハ第一豫科第二學年ニ入學スルコトヲ得

一　中學校卒業者

二　高等學校高等科一學年修了者

三　專門學校入學者檢定規程ニ依ル試驗檢定合格者

四　文部大臣ニ於テ專門學校入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

第四十九條　入學期ハ學年ノ始トス但シ補缺トシテ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第五十條　第十二條乃至第二十三條ノ規定ハ之ヲ豫科學生ニ準用ス

第三節　試驗

第五十一條　試驗ハ學年ノ終又ハ臨時之ヲ行フ

必要アルトキハ追試驗及ヒ再試驗ヲ行フ追試驗又ハ再試驗ヲ受クル者ハ一科目ニ付受驗料金一圓ヲ納ムヘシ五科目以上ナルトキハ受驗料金五圓ヲ納ムヘシ

第五十二條　試驗ノ成績ハ各科目ニ付優、良、可、不可ヲ以テ表示シ優、良、可ヲ合格トシ不可ヲ不合格トス

第五十三條　配當科目ノ全部ニ合格スルニ非サレハ進級スルコトヲ得ス

不合格ノ科目總科目ノ三分ノ一ニ達セサルトキハ教員會ノ銓衡ニ依リ前項ノ規定ニ拘ラス假ニ進級セシムルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ不合格ノ科目ニ付再試驗ヲ受ケ合格スルコトヲ要ス

引續キ二回進級セサル者ハ退學ヲ命スルコトアルヘシ

第四節　學費

第五十四條　入學ヲ許可セラレタル者ハ入學料トシテ金五圓ヲ納ムヘシ

第五十五條　授業料ハ一學年金百圓トス左ノ三期ニ之ヲ納ムヘシ但シ特別ノ事情アル者ニ限リ最初ノ月ニ在リテハ金十圓其ノ他ノ月ニ在リテハ金九圓宛ノ分納ヲ許スコトアルヘシ

第一期　四月(金三十五圓)

第二期　九月(金三十五圓)

第三期　一月(金三十圓)

第五十六條　第三十條及ヒ第三十三條乃至第三十五條ノ規定ハ之ヲ豫科學生ニ適用ス

中央大学学則：大学部大学予科専門部　1939(昭和14)年2月

第五章　給費生及ヒ特待生

第五十七條　學長ハ大學及ヒ豫科學生中學術優等品行方正ナル者ヲ銓衡シ給費生又ハ特待生ト爲スコトヲ得

第五十八條　給費生ニハ當該學年間年額金三百圓以内ノ學資ヲ給與シ特待生ニハ當該學年間授業料ヲ免除ス

第五十九條　給費生又ハ特待生ニシテ其ノ地位ニ適セサル事實アルトキハ直ニ之ヲ免ス

第六章　貸費生及ヒ留學生

第六十條　學長ハ大學及ヒ豫科學生中學術優等品行方正ニシテ學資支辨ノ途ナキモノヲ銓衡シ貸費生トシテ當該學年間年額金三百圓以内ヲ貸與スルコトヲ得

第六十一條　貸費ニ關シ寄附者アルトキハ其ノ寄附者ノ指定ニ從フ

第六十二條　貸費生タラントスル者ハ其ノ事情ヲ具シタル願書ヲ差出スヘシ

第六十三條　貸費生タルノ許可ヲ得タル者ハ保證人二名ト連署シテ所定ノ證書ヲ差入ルヘシ

第六十四條　貸費生ニシテ卒業シタル者ハ卒業後一個年目ヨリ毎月貸費ヲ受ケタル半額以上ヲ月賦ヲ以テ返納スヘシ

第六十五條　貸費生ニシテ其ノ地位ニ適セサル事實アルトキハ直ニ之ヲ免ス

第六十六條　貸費生退學ヲ命セラレ、除名セラレ、貸費ヲ免セラレ又ハ退學シタルトキハ貸與金額ヲ即時ニ返納スヘシ但シ疾病ノ爲メ廢學シタル場合ニハ情狀ニ因リ月賦返納ヲ許スコトアルヘシ

第六十七條　學長ハ卒業者中學力優秀ニシテ將來學術ノ蘊奥ヲ攻究セント欲スル者ヲ銓衡シ特ニ留學生トシテ學資ヲ貸與シ留學セシムルコトヲ得

留學生ニ關スル事項ハ其ノ都度之ヲ定ム

第七章　學生心得

第六十八條　登校スルトキハ必ス制服制帽洋服若クハ袴ヲ着ケ靴又ハ上草履ヲ用フヘシ

第六十九條　登校スルトキハ必ス學生證ヲ携帶スヘシ之ヲ携帶セサルトキハ退場ヲ命スルコトアルヘシ

第七十條　教場ニ於テハ靜肅ヲ旨トシ雜談、喫煙其ノ他粗暴ノ擧動アルヘカラス

第七十一條　授業中ハ退席スルコトヲ得ス、止ムヲ得サル事故アリテ退席セントスルトキハ教員ノ許可ヲ受クヘシ

第七十二條　氏名ヲ改稱シ又ハ本籍住居等ヲ移轉シタルトキハ遲滯ナク屆出ツヘシ

第七十三條　三日以上闕席セントスルトキハ必ス其ノ事由ヲ具シ保證人ト連署シテ屆出ツヘシ但シ七日以上闕席スルトキハ證明書ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十四條　闕席屆出ノ日數ハ一個月ヲ超ユルヲ得ス若シ一個月ヲ超エ事由仍ホ止マサルトキハ其ノ都度必ス新ニ屆出ヲ爲スコトヲ要ス

中央大学学則：大学部大学予科専門部　1939(昭和14)年2月

第八章　懲　戒

第七十五條　學則又ハ校規ニ違反シ其ノ他不都合ノ行爲アル者ハ情狀ニ因リ停學又ハ退學ヲ命ス

第一項ノ規定ニ依リテ退學ヲ命シタルトキハ其ノ旨ヲ同等學校ニ通知ス

第七十六條　品行不良改悛ノ見込ナキ者ハ退學ヲ命ス

第七十七條　前二條ノ規定ニ依リ停學又ハ退學ヲ命シタルトキハ其ノ旨ヲ父兄及ヒ保證人ニ通知ス

附　則

一　本則ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

一　本則施行ノ際現ニ存スル第二學年及ヒ第三學年ノ學科課程、其ノ配當及ヒ授業時間數ハ其ノ第二學年ニ屬スル學生ノ卒業スヘキ學年試驗ヲ終ル迄仍ホ從前ノ規定ニ依ル

一　學部ノ第一學年又ハ第二學年ノ學生中昭和六年ニ施行シタル學年試驗ニ於テ從前ノ規定第二十八條ニ依リ次ノ學年ノ試驗ヲ受クルコトヲ得サルニ至リタル者ト雖モ本則施行後ニ於テハ次ノ學年ノ試驗ヲ受クルコトヲ得但シ其ノ合格セサリシ科目ニ付テハ試驗ヲ免除スルノ限ニ在ラス

一　本則改正ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

一　本則施行ノ際現ニ存スル各學部第二學年竝法學部第三學年ノ學生ハ從前ノ規程ニ依ル

一　本則改正ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ適用ス但シ現ニ存スル第二學年及第三學年ノ學生、生徒ハ從前ノ規程ニ依ル

中央大學專門部學則

第一章　總　則

第一條　大學ニ專門部ヲ置ク專門部ハ法學、經濟學、政治學、商學ニ關スル學術ノ理論及ヒ應用ヲ教授スルヲ以テ目的トス

第二條　專門部ニ法學、經濟學、商學ノ三學科ヲ置キ學生ヲ正科生及ヒ別科生ノ二種ニ別ツ

第三條　學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第四條　休業日ハ左ノ通トス但シ必要アリト認ムルトキハ臨時休業スルコトアルヘシ

四月一日ヨリ十五日ニ至ル

七月十六日ヨリ九月十日ニ至ル

十二月二十六日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

日曜日

大祭祝日

大學記念日(七月八日)

第五條　專門部ニ所定ノ期間在學シ且其ノ配當科目全部ノ試驗ニ合格シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

中央大学学則：大学部大学予科専門部　1939(昭和14)年2月

轉學其ノ他ニ因リテ中途ニ入學シタル者ニシテ其ノ屬スル學年以後ノ所定ノ期間在學シ且其ノ配當科目ノ全部ノ試驗ニ合格シタル者ハ前項ニ定メタル所定ノ期間在學シ且其ノ配當科目全部ノ試驗ニ合格シタルモノト看做ス

第二十七條ニ定メタル試驗ニ合格シタル者ニハ請求ニ依リ其ノ科目ノ合格證明書ヲ交付ス

第六條　各學科ノ修學期間ヲ三學年トス

第二章　專門部

第一節　學科課程

第七條　各學科ノ學科課程、其ノ配當及ヒ授業時間數左ノ如シ

第一法學科

第一學年			第二學年			第三學年		
科目	必修科目	每週授業時間數	科目	必修科目	每週授業時間數	科目	必修科目	每週授業時間數
修身	一修身	一	修身	一修身	一			
法學通論	二憲法	二	行政法各論	二民法總論	二	會社法	二民法總論	二
			物權法第一部	二物權法第二部	二	手形法	二行政法總論	二
			債權總論	三債權各論	三	保險法	二民事訴訟法第一編	二
			親族法	二相續法	二	海商法	二民事訴訟法第二編乃至第五編	二
			刑法總論（刑事政策ヲ含ム）	三刑法各論	二	民事訴訟法第六編以下	二外國語	六
			經濟學	二商法總則	二	民事演習	二刑事演習	二
			論理・心理	二民事訴訟法第一編	二	刑事演習	二	
			哲學概論	二				
			外國語	六刑事訴訟法	三體操	二		
			體操	二民事演習	二			
				刑事演習	二			
				外國語	四			
				體操	二			

夜間部ニハ體操ヲ實施セス

選擇科目

中央大学学則：大学部大学予科専門部　1939(昭和14)年2月

法制史	二	國際公法	二	(法律學史ヲ含ム)哲學	二
社會學	二	法制史	二	(共通法ヲ含ム)國際私法	二
				(和議法ヲ含ム)破産法	二
				財政學	二

選擇科目ハ學年ノ始ニ於テ第一學年第二學年ハ一科目、第三學年ハ二科目ヲ選擇シテ屆出ツルコトヲ要ス

隨意科目					
外國語(英・獨・佛・支)	二	外國語(英・獨・佛・支)	二	外國語(英・獨・佛・支)	二

選擇科目中自己ノ選擇セサル科目及ヒ經濟學科又ハ商學科ノ各科目ハ隨意科目トシテ修學スルコトヲ得

第二 經濟學科

第一學年		第二學年		第三學年	
科目	毎週授業時間數	科目	毎週授業時間數	科目	毎週授業時間數
必修科目					
修身	一	修身	一	修身	一
經濟原論	二	經濟學史	二	工業政策	二

經濟史	二	銀行論	二	交通政策	二
經濟地理	二	農業政策	二	社會政策	二
貨幣論	二	商業政策	二	財政學	二
統計學	二	外國爲替及關稅	二	保險學	二
植民政策	二	政治史	二	政治學	二
簿記原理	二	經營學	二	證券市場論	二
法學通論	二	應用簿記	二	配給組織論	二
民法總則	二	憲法	二	統制經濟論	二
物權法	四	行政法總論	二	會計學	二
論理・心理	二	債權法	四	行政法各論	二
哲學概論	二	商法(總則・商行爲)	二	商法(會社・海商・手形)	四
英語	六	英語	六	英語	六
隨意科目					
親族法	二	相續法	二	社會學	二
刑法總論	三	刑法各論	二	國際公法	二

中央大学学則：大学部大学予科専門部　1939(昭和14)年2月

外國語（英・獨・佛・支）	二

第三 商學科

第一學年		第二學年		第三學年	
科目	每週授業時間數	科目	每週授業時間數	科目	每週授業時間數
必修科目					
修身	一	修身	一	修身	一
商業通論	二	銀行簿記	二	會計學	二
商業簿記	三	經營學	二	原價計算及監査	二
商品學	二	外國爲替及關稅	二	貿易實務	二
經濟原論	二	銀行論	二	企業金融論	二
貨幣論	二	商業算術	二	廣告論	一
統計學	二	商業史	二	證券市場論	二
經濟地理	二	商業政策	二	財政學	二
商業英語	二	經濟事情	二	配給組織論	二
法學通論	二	景氣變動論	一	保險學	二
民法（總則・物權）	四	商業英語	二	交通政策	二
論理・心理	二	憲法	二	珠算	二
哲學概論	二	民法（債權）	二	商業英語	二
英語	四	商法（總則・商行爲）	二	商法（會社・海商・手形）	四
		英語	四	英語	四
隨意科目					
數學	一	教育學	二	教授法	二
外國語（英・獨・佛・支）	二	外國語（英・獨・佛・支）	二	外國語（英・獨・佛・支）	二

第二學年ニ於ケル教育學及第三學年ニ於ケル教授法ハ實業教員志望者ニ限リ必修トシテ之ヲ課ス

第二節 入學、休學、退學及ヒ除名

第八條 入學ヲ許可スヘキ者ハ年齡十七年以上ノ男子トス

正科生ノ入學資格左ノ如シ 但シ外國人ニシテ之ニ相當スル學歷ヲ有スル者ハ中學校卒業程度ノ試驗檢定ノ上之ヲ許可ス

中央大学学則：大学部大学予科専門部 1939(昭和14)年2月

一　中學校卒業者

二　專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定合格證書ヲ有スル者

三　文部大臣ニ於テ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定シタル者

別科生ハ志願者ノ履歷ニ就キ銓衡ノ上入學ヲ許可ス但シ國語、漢文、數學又ハ英語ノ全部又ハ一部ニ付キ試驗ヲ行フコトアルヘシ

第九條　第二學年以上ニ入學スルニハ前條ノ資格ヲ有シ且第一學年又ハ第二學年ノ配當科目ノ試驗ニ合格スルコトヲ要ス但シ受驗料ハ金五圓トス

第十條　同等學校ニ於テ第二學年以上ニ在學シ轉學スル者ハ相當ノ學年ニ編入スルコトヲ得但シ學科課程中他校ニ於テ修了セサル科目アルトキハ其ノ科目ニ限リ試驗ヲ行フヘシ

第十一條　入學ノ許可ヲ請フ者ハ入學申込書ニ履歷書ヲ添ヘ差出スヘシ但シ試驗ヲ要スル場合ニハ同時ニ受驗料金三圓ヲ納ムヘシ

第十二條　正科生ノ入學期ハ學年ノ始トス但シ第十條、第二十條第二項又ハ第二十一條ノ規定ニ依リテ轉學又ハ再入學スル者ハ此ノ限ニ在ラス

別科生ノ入學期ハ學年ノ始トス但シ隨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第十三條　入學ノ許可ヲ得タルトキハ直ニ保證人ト連署シテ在學證ヲ差出スヘシ

第十四條　保證人ハ成年者ニシテ東京市又ハ其ノ隣接市町村內ニ於テ獨立ノ生計ヲ立ツルモノナルコトヲ要

ス

保證人ハ本人在學中ニ係ル一切ノ事項ニ付其ノ責ニ任スヘキモノトス

第十五條　保證人死亡シ又ハ前條ノ要件ヲ缺キタルトキハ遲滯ナク之ヲ改定シ更ニ在學證ヲ差出スヘシ保證人ノ變更アリタルトキ亦同シ

保證人住所又ハ氏名ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第十六條　疾病其ノ他止ムヲ得サル事故ニ因リ滿二個月以上修學スルコト能ハサルトキハ其ノ事實ヲ證スル書面ヲ添附シ保證人連署ノ上其ノ許可ヲ受ケ當該學年間休學スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ休學シタル者休學ノ事由止ミタルトキハ保證人連署ノ上許可ヲ受ケ原級ニ入リ修學スルコトヲ得

第十七條　給費生、貸費生ハ休學ノ月ヨリ其ノ資格ヲ失フ

第十八條　陸軍、海軍ノ現役ニ服スル者及ヒ召集中ノ者ハ其ノ期間第十六條ニ準シテ休學シ滿期後直ニ原級ニ復スルコトヲ得

第十九條　疾病其ノ他ノ事故ニ因リ退學セントスル者ハ保證人連署ノ上屆出ツヘシ

第二十條　左ニ揭クル者ハ學籍ヨリ除名ス

一　學業劣等又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ成業ノ見込ナシト認メタル者

二　出席常ナラサル者

中央大学学則：大学部大学予科専門部　1939(昭和14)年2月

三　何等ノ事由ヲ以テスルニ拘ラス引續キ一個年間闕席シ又ハ正當ノ事由ナク一個月以上闕席シタル者

第二十一條ノ規定ハ前項ニ依リテ除名セラレタル者ニ之ヲ準用ス

第二十一條　第六十五條又ハ第六十六條ノ規定ニ依リ退學處分ヲ受ケタル者四個月以上ヲ經過シ改悛ノ情顯著ナルモノト認メタルトキハ特ニ再入學ヲ許スコトアルヘシ

第三節　試驗

第二十二條　試驗ハ學年ノ終又ハ授業ヲ終リタル際之ヲ行フ

必要アルトキハ追試驗及ヒ再試驗ヲ行フ、追試驗又ハ再試驗ヲ受クル者ハ一科目ニ付受驗料金一圓ヲ納ムヘシ、五科目以上ナルトキハ受驗料金五圓ヲ納ムヘシ

第二十三條　試驗ノ方法ハ筆記又ハ口述トス

第二十四條　試驗ノ成績ハ各科目ニ付甲、乙、丙ヲ以テ表示シ甲、乙ヲ合格トシ丙ヲ不合格トス

第二十五條　授業ヲ受ケタル科目ニアラサレハ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

休學シタル者ハ其ノ學年ニ屬スル試驗ヲ受クルコトヲ得ス但シ第十八條ニ定メタル休學者ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條第二項ニ該當スル者ハ其ノ休學取消ノ承認ヲ得テ試驗ヲ受クルコトヲ得

第二十六條　或ル科目ニ付三個年內ニ試驗ニ合格セサル者ハ全部合格ニ至ル迄在學スルコトヲ得但シ六個年ヲ超ユルコトヲ得ス試驗ヲ受ケスシテ在學スル者亦同シ

在學六個年ニ滿ツル者其ノ最後ノ學年試驗ノ追試驗又ハ再試驗ヲ受ケントスルトキハ許可ヲ受ケ前項但書ノ規定ニ拘ラス其ノ追試驗又ハ再試驗ノ施行ヲ終ル迄ノ期間在學スルコトヲ得

第十二條ノ規定ニ依リテ入學シタル者ニ付テハ其ノ入學シタル日ニ至ル迄ニ要スヘカリシ期間在學シタルモノトシテ其ノ在學期間ヲ計算ス

第二十條又ハ第二十一條ノ規定ニ依リテ再入學シタル者ニ付テハ其ノ除名中又ハ退學中ニ屬スル期間ヲ其ノ在學期間ニ通算ス但シ學年ノ始ニ於テ第一學年ニ入學シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條　隨意科目ノ試驗ハ希望アル場合ニ限リ之ヲ行フ

學年ノ始ニ於テ許可ヲ受ケ隨意科目ヲ修學シタル者ニアラサレハ前項ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第二十八條　試驗ハ授業料ヲ完納シ且必要ナル受驗料ヲ納付シタル者ニアラサレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

第四節　學費

第二十九條　入學ヲ許可セラレタル者ハ入學料トシテ金三圓ヲ納ムヘシ

第三十條　授業料ハ一學年金七十七圓トシ左ノ三期ニ之ヲ納ムヘシ但シ當分月割金七圓宛分納スルヲ妨ケス

第一期　四月（金三十圓）

中央大学学則：大学部大学予科専門部　1939(昭和14)年2月

第二期　九月（金三十圓）
第三期　一月（金十七圓）

第三十一條　學年ノ中途ニ入學シ又ハ退學スル者ハ特ニ入學前及ヒ退學後ノ授業料ヲ免除ス休學中ハ授業料ヲ免除ス

第三十二條　在學中ハ闕席シタルトキト雖モ授業料ヲ免除セス

第三十三條　授業料ヲ月割分納スル者ハ翌月分ヲ前月末日迄ニ納付スヘシ

第三十四條　納付シタル授業料ハ返付セス

第五節　給費生及ヒ特待生

第三十五條　學長ハ學生中學術優等品行方正ナル者ヲ銓衡シ給費生又ハ特待生ト爲スコトヲ得

第三十六條　給費生ニハ當該學年間年額金三百圓以内ノ學資ヲ給與シ特待生ニハ當該學年間授業料ヲ免除ス

第三十七條　給費生又ハ特待生ニシテ其ノ地位ニ適セサル事實アルトキハ直ニ之ヲ免ス

第六節　貸費生及ヒ留學生

第三十八條　學長ハ學生中學術優秀品行方正ニシテ學資支辨ノ途ナキ者ヲ銓衡シ貸費生トシテ當該學年間年額金三百圓以内ヲ貸與スルコトヲ得

第三十九條　貸費ニ關シ寄附者アルトキハ其ノ寄附者ノ指定ニ從フ

第四十條　貸費生タラントスル者ハ其ノ事情ヲ具シタル願書ヲ差出スヘシ

第四十一條　貸費生タルノ許可ヲ得タル者ハ保證人二名ト連署シテ所定ノ證書ヲ差入ルヘシ

第四十二條　貸費生ニシテ卒業シタル者ハ卒業後一個年目ヨリ毎月貸費ヲ受ケタル半額以上ヲ月賦ヲ以テ返納スヘシ

第四十三條　貸費生ニシテ其ノ地位ニ適セサル事實アルトキハ直ニ之ヲ免ス

第四十四條　貸費生退學ヲ命セラレ、除名セラレ、貸費ヲ免セラレ又ハ退學シタルトキハ貸與金額ヲ即時ニ返納スヘシ但シ疾病ノ爲メ廢學シタル場合ニハ情狀ニ依リ月賦返納ヲ許スコトアルヘシ

第四十五條　學長ハ卒業者中學力優秀ニシテ將來學術ノ蘊奥ヲ研究セント欲スル者ヲ銓衡シ特ニ留學生トシテ學資ヲ貸與シ留學セシムルコトヲ得

留學生ニ關スル事項ハ其ノ都度之ヲ定ム

第三章　研究科

第四十六條　研究科ハ專門部ノ卒業者ニシテ既修ノ學科ニ付尙ホ深邃ナル研究ヲ爲サント欲スル者ノ爲メニ之ヲ設ク

第四十七條　研究科ノ修業科目ハ左ノ十一科トシ各自志望ノ科目ヲ專攻セシム

中央大学学則：大学部大学予科専門部　1939(昭和14)年2月

憲法　行政法　刑法　民法　商法　訴訟法　國際法　政治學　經濟學
財政學　商業學

第四十八條　修業年限ハ一年以上三年トス

第四十九條　入學期ハ學年ノ始トス但シ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第五十條　研究科ハ專門部、舊英吉利法律學校、舊東京法學院又ハ舊東京法學院大學ノ卒業者ニシテ學長ノ承認ヲ經タル者ニ限リ入學ヲ許ス但シ同等學校卒業者又ハ之ト同等以上ノ學歷アル者ニ入學ヲ許スコトアルヘシ

第五十一條　削除

第五十二條　第十一條及ヒ第十三條乃至第二十一條ノ規定ハ之ヲ研究科學生ニ準用ス

第五十三條　研究科ノ授業料ハ一個年金五十五圓トシ左ノ三期ニ之ヲ納ムヘシ

第一期　四月（金二十圓）
第二期　九月（金二十圓）
第三期　一月（金十五圓）

第三十一條第三十二條及第三十四條ノ規定ハ之ヲ前項ノ授業料ニ準用ス

第五十四條　研究科學生ハ特ニ開ク講義ヲ聽聞スルノ外本大學ノ指定セル指導者ニ從ヒ專攻ノ學科ヲ研究スルモノトス

研究科學生ハ任意ニ一般學生ノ爲ニスル講義ヲ聽聞スルコトヲ得

第五十五條　研究科ノ卒業試驗ハ論文試問トス但シ場合ニ依リ更ニ口述試問ヲ爲スコトアルヘシ

卒業論文ハ二人以上ノ指導者之ヲ批判ス

落第者ハ更ニ六ヶ月以上修業ノ後再ヒ試驗ニ應スルコトヲ得

第五十六條　研究科ノ卒業試驗ニ應セントスル者ハ受驗料金二十圓ヲ納ムヘシ

第二十八條ノ規定ハ前項ノ試驗ニ之ヲ準用ス

第五十七條　研究科ノ卒業試驗ニ合格シタル者ニハ卒業證書ヲ授與シ中央大學法律學士、中央大學經濟學士、中央大學商業學士ノ稱號ヲ認許ス

第四章　學生心得

第五十八條　登校スルトキハ必ス制服制帽、洋服若クハ袴ヲ着ケ靴又ハ上草履ヲ用ウヘシ

第五十九條　登校スルトキハ必ス學生證ヲ携帶スヘシ之ヲ携帶セサルトキハ退場ヲ命スルコトアルヘシ

第六十條　教場ニ於テハ靜肅ヲ旨トシ雜談、喫煙其ノ他粗暴ノ擧動アルヘカラス

第六十一條　授業中ハ退席スルコトヲ得ス止ムヲ得サル事故アリテ退席セントスルトキハ教員ノ許可ヲ受クヘシ

第六十二條　氏名ヲ改稱シ又ハ本籍住居等ヲ移轉シタルトキハ遲滯ナク屆出ツヘシ

中央大学学則：大学部大学予科専門部　1939(昭和14)年2月

第六十三條　三日以上闕席セントスルトキハ必ス其ノ事由ヲ具シ保證人ト連署シテ屆出ツヘシ但シ七日以上闕席スルトキハ證明書ヲ添附スルコトヲ要ス

第六十四條　闕席屆出ノ日數ハ一個月ヲ超ユルヲ得ス若シ一個月ヲ超エ事由尙ホ止マサルトキハ其ノ都度必ス新ニ屆出ヲ爲スコトヲ要ス

第五章　懲戒

第六十五條　學則又ハ校規ニ違反シ其ノ他不都合ノ行爲アル者ハ情狀ニ因リ停學又ハ退學ヲ命ス

第一項ノ規定ニ依リテ退學ヲ命シタルトキハ其ノ旨ヲ同等學校ニ通知ス

第六十六條　品行不良改悛ノ見込ナキ者ハ退學ヲ命ス

第六十七條　前二條ノ規定ニ依リ停學又ハ退學ヲ命シタルトキハ其ノ旨ヲ父兄及ヒ保證人ニ通知ス

附則

一　本則ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

一　本則施行ノ際現ニ存スル第二學年及ヒ第三學年ノ學科課程及ヒ其ノ配當ハ其ノ第二學年ニ屬スル學生ノ卒業スヘキ學年試驗ヲ終ル迄仍ホ從前ノ規定ニ依ル

一　第一學年又ハ第二學年ノ學生中昭和六年ニ施行シタル學年試驗ニ於テ從前ノ規定第二十七條ニ依リ次ノ學年ノ試驗ヲ受クルコトヲ得サルニ至リタル者ト雖モ本則施行後ニ於テハ次ノ學年ノ試驗ヲ受クルコトヲ得但シ其ノ合格セサリシ科目ニ付テハ試驗ヲ免除スルノ限ニ在ラス

一　本則改正ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

一　本則改正ノ際現ニ存スル各學科第二學年及第三學年ノ生徒ハ從前ノ規程ニ依ル

一　本則改正ハ昭和十一年十二月十日ヨリ之ヲ施行ス但シ第五十三條ハ昭和十一年十二月十日以降入學シタル者ニ又第五十七條ハ昭和十一年四月以降卒業シタル者ニ之ヲ適用ス

一　本則改正ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ適用ス但シ現ニ存スル第二學年及第三學年ノ生徒ハ從前ノ規程ニ依ル

中央大学学則：大学部大学予科専門部　1939(昭和14)年2月

中央大学学則：大学部大学予科専門部　1939(昭和14)年2月

昭和十四年二月

東京市神田區駿河臺三丁目九番地ノ四

中央大學

20051956

中央大学学則：大学部大学予科専門部　1939(昭和14)年2月

入學願書

注意〔一、相當箇所ニ記入シ不要ノ文字ハ抹消スルコト
一、氏名ニハ振假名ヲ附スルコト

本籍

現住所

戸主　　男
弟

氏名

明治
大正　　年　　月　　日生

寫眞第一　寫眞ハ縦一寸二分横一寸ニシテ臺紙ニ貼附ナキ最近ノモノニシテ脱帽正面向、顔ノ長サ六分、裏面ニハ志望部科學年、氏名及生年月日ヲ記入シ上部ニ二枚貼附スルコト

寫眞第二　目貼

所箇附目貼

所箇附

學年ニ入學致度候間御詮衡ノ上

私儀貴學　大學專門部
第一　學部學科（晝夜間部）
第二　大學豫科　第　學

第二志望部科

御許可相成度書類ヲ具シ此段及御願候

昭和　年　月　日

右　氏名

中央大學學長　法學博士　林　賴三郎殿

（受付第　號）

中央大学学則：大学部大学予科専門部　1939(昭和14)年2月

履歷書

注意　相當個所ニ學校名等ヲ記入シ不要ノ文字ハ抹消スルコト

氏名

明治
大正　年　月　日生

中學校第四學年修業
高等學校高等科入學資格試驗合格
中商業學校卒業
專門學校入學者檢定試驗合格
檢定試驗合格
高等學豫科卒業
大學豫科卒業
大學專門部學校卒業

學業

一、大正昭和　年　月　府縣

一、大正昭和　年　月　府縣

一、大正昭和　年　月　府縣

職業

一、

一、

20051956

中央大学学則 : 大学部大学予科専門部　1939(昭和14)年2月

昭和十一年度（十二年度）高等試験合格者出身校別

學校名	昭和十三年度 司法科	昭和十三年度 行政科	昭和十三年度 合計	昭和十二年度 司法科	昭和十二年度 行政科	昭和十二年度 合計	昭和十一年度 司法科	昭和十一年度 行政科	昭和十一年度 合計
東京帝國大學	七四	一四七	二二一	八八	九六	一八四	一一三	一三六	二四九
中央大學	五二	六	五八	四四	九	五三	四九	八	五七
京都帝國大學	二一	一五	三六	一九	六	二五	三四	五	三九
日本大學	二七	五	三二	一九	一	二〇	二三	六	二九
關西大學	一二	一	一三	一六	一	一七	一四	〇	一四
明治大學	一二	一	一三	九	二	一一	六	一	七
東北帝國大學	八	三	一一	六	一	七	一一	四	一五
京城帝國大學	二	四	六	一〇	六	一六	二	三	五
九州帝國大學	〇	一	一	一一	一	一二	五	四	九
早稻田大學	四	二	六	六	一	一一	一四	一	一五
立命館大學	六	〇	六	五	〇	五	一	一	二
法政大學	二	〇	二	三	〇	三	二	一	三
京城法學專門學校	〇	二	二	二	〇	二	一	一	二
臺北帝國大學	—	〇	〇	一	〇	一	一	〇	一
慶應義塾大學	一	〇	一	一	〇	一	一	〇	一
同志社大學	〇	〇	〇	一	〇	一	一	〇	一
上智大學	—	〇	〇	一	〇	一	一	〇	一
高等學校	〇	〇	〇	一	〇	一	一	〇	一
高等商業學校	一	二	三	一	〇	一	一	〇	一
高等農林學校	一	〇	一	一	〇	一	一	〇	一
北海道帝國大學	〇	一	一	一	〇	一	一	〇	一
東京商科大學	—	一	一	一	〇	一	一	〇	一
高等工業學校	〇	—	一	一	〇	一	一	〇	一
外國語學校	一	〇	一	一	〇	一	一	〇	一
水產講習所	—	〇	一	一	〇	一	一	〇	一
豫備試驗合格	一九	五	二四	一三	一二	二五	一六	九	二五
工業大學	—	—	—	一	一	一	〇	〇	〇
立教大學	—	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
專修大學	一	〇	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇
拓殖大學	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
駒澤大學	—	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
國學院大學	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
關西學院	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
高等師範學校	〇	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇
高等蠶絲學校	〇	—	—	〇	〇	〇	〇	〇	〇
官立商船學校	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
横濱專門學校	〇	—	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
日本大學專門學校	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
普成專門學校	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
横濱商業專門學校	—	—	—	〇	〇	〇	〇	〇	〇
青山學院	—	—	—	〇	〇	〇	〇	〇	〇
明治學院	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
東北學院	—	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇
西南學院	—	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
二松學舍專門學校	—	—	—	〇	〇	〇	〇	〇	〇
哈爾賓學院	—	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
東亞同文書院	—	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
教員養成所	一	〇	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇
早稻田專門學校	—	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
文官高等試驗合格	〇	—	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
商科大學	〇	—	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
豫備試驗免除	—	—	—	〇	〇	〇	〇	〇	〇
立正大學	—	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
東洋大學	〇	—	—	〇	〇	〇	〇	〇	〇
同志社專門學校	—	—	—	〇	〇	〇	〇	〇	〇
大阪商科大學	—	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
神戸商業大學	—	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
文理科大學	—	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
大正大學	—	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

20051956

中央大学学則：大学部大学予科専門部　1939(昭和14)年2月

中央大學入學志願者心得

中央大學入學志願者心得（昭和十四年度）

◇大學豫科◇

一、募集學級
第一豫科（晝間三年制）（第一學年／第二學年）英語科
第二豫科（夜間二年制）第一學年　獨語科

一、入學資格
（一）第一豫科第一學年
(1) 中學校第四學年修了者
(2) 高等學校尋常科修了者
(3) 高等學校高等科入學資格試驗合格者
(4) 甲種實業學校卒業者
(5) 其他中學校卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ト公認セラレタル者
（二）第一豫科第二學年
第二豫科第一學年
(1) 中學校卒業者
(2) 甲種實業學校卒業者
(3) 高等學校高等科第一學年修了者
(4) 專門學校入學檢定規定ニ依ル試驗檢定合格者
(5) 其他中學校卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ト公認セラレタル者

一、出願手續
（一）左記書類ヲ取揃ヘ豫科教務課宛差出スヘシ
(1) 入學願書、履歷書及　寫眞二葉（臺紙ナキ最近ノモノニシテ脫帽正面向額ノ長サ六分裏面ニ姓名生年月日ヲ記入ノ上願書ニ貼付スヘシ）
(2) 中學校其他ニ於ケル最終學年成績證明書
(3) 檢定ノ合格ニ依リ入學資格ヲ有スルモノハ當該試驗合格證明書
（入學願書及履歷書用紙ハ本學ヨリ交付ス）
（二）受驗料　金五圓
前項書類ト共ニ豫科教務課ニ納入シ受驗證ノ交付ヲ受クヘシ
（既ニ納入シタル受驗料ハ之ヲ返付セス）
郵便ニ依リ出願ノ者ハ受驗證書留郵送料トシテ十四錢切手ヲ添付スヘシ

一、願書受付期限
昭和十四年三月三十一日迄

一、入學試驗科目
第一豫科第一學年　國語、漢文、英語
第一豫科第二學年　國語、漢文、英(獨)語
第二豫科第一學年　國語、漢文、英語
口頭試問及體格檢査

一、試驗期日
試驗時間割ハ出願手續完了ノ際交付スル受驗證ニ記入シアリ
昭和十四年四月四日（學科試驗）
同　四月五日六日（口頭試問、體格檢査）

一、試驗場
中央大學豫科（省線電車　御茶ノ水驛下車徒歩約四分／市內電車　駿河臺停留場下車徒歩約五分）

一、受驗者心得
(1) 試驗當日受驗三十分前迄ニ必ス登校スヘシ
(2) 服裝ハ學生服又ハ和服（著袴）トシ靴以外ノ者ハ上草履ヲ携帶スヘシ
但シ第二豫科第一學年入學志願者ハ一般洋服ヲ着用スルコトヲ得
(3) 受驗證及ヒ筆記用具（ペン、インク、鉛筆）及所定ノ物品ノ外携帶スルコトヲ得ス
(4) 答案用紙ハ本學ヨリ交付ス

一、入學手續
入學ノ許可ヲ受ケタル者ハ四月十日迄ニ手續ヲ完了スヘシ其方法左ノ如シ
(1) 保證人連署ノ在學證（用紙ハ本學ヨリ交付ス。保證人ハ東京市內又ハ隣接市町村居住ノ成年者ニシテ獨立ノ生計ヲ營ミ一戶ヲ構フル者）
(2) 入學料　金五圓
(3) 第一學期授業料　金三十五圓
(4) 校費（第一學期金三圓）
(5) 敎練費（一ヶ年金三圓五十錢）但シ第一豫科ノミ
右豫科教務課ヲ經由シ會計課ヘ提出スヘシ

一、其他ノ注意
(1) 入學願書提出後入學ニ關シ問合ハス場合ニハ必ス科、學年別、受驗證番號、氏名ヲ以テスヘシ
(2) 入學ニ關シ提出シタル書類其他ハ返戾セス
(3) 試驗又ハ入學ニ關シ尙注意ヲ要スル事アル場合ニハ其都度受驗者控室ニ揭示ス
(4) 試驗期日切迫シテ願書ヲ郵送シタル者ニ對シテハ受驗證ハ試驗當日交付ス

◇大學部◇

一、募集學年及人員
（晝間、夜間）法學部（英法科／獨法科）、經濟學部、商學部　各第一學年　若干名

一、入學資格
（一）本學豫科卒業者ハ無試驗入學ヲ許ス
（二）左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ試驗ノ上入學ヲ許ス
（一）高等學校高等科卒業者又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等ノ學力アリト認メタル者
（二）本大學舊大學部卒業者、專門部卒業者及同等學校豫科卒業者並專門學校卒業者（但大正七年文部省令第三號第二條第二號ニ依リ指定セラレタル者ニ限ル）

一、出願手續
入學志願者ハ四月四日迄ニ入學願書、履歷書、寫眞二枚（臺紙ニ貼付ナキ最近ノモノニシテ脫帽正面向額ノ長サ六分裏面ニハ必ス姓名、生年月日ヲ記入スヘシ）及高等學校高等科其他ニ於ケル卒業成績證明書（卒業年月日ヲ明記スルコト）ヲ添附（入學願書及履歷書用紙ハ本大學ヨリ交付ス）シテ教務課ニ提出シ受驗料金五圓ヲ會計課ニ納入スヘシ（既ニ納入シタル受驗料ハ返付セス）

一、入學試驗
試驗科目　國語、漢文、英語又ハ獨語
試驗期日　四月六日午後六時ヨリ
學科試驗ニ合格シタル者ハ銓衡ノ上入學ノ許否ヲ決ス
入學志願者ハ第一志望學部ノ外第二志望學部ヲ記載スルコトヲ得

一、入學手續
入學ノ許可ヲ受ケタル者ハ二日以內ニ在學證（本大學教務課ヨリ交付ス）ニ學費（入學料金五圓、授業料第一期金四十圓）及校費（第一期金參圓）ヲ添ヘ教務課ヲ經テ會計課ニ納入スヘシ

◇專門部◇

一、募集學年及人員
第一學年　法學科（晝、夜）晝 四百名　夜 六百名
　　　　　經濟學科（夜）　三百名
　　　　　商學科（夜）　三百名
第二學年　法學科（晝、夜）、經濟學科（夜）、商學科（夜）　各若干名

一、入學資格
（一）正科生ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノトス但外國人ニ付テハ其履歷ヲ檢シ本學ニ於テ學力試驗ヲ行ヒ其許否ヲ決ス
（一）大學豫科第一學年修了者
（二）中學校卒業者及同資格者
（三）專門學校入學者檢定規程ニ依ル試驗檢定合格者
（四）文部大臣ニ於テ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定セラレタル者（師範學校卒業者甲種實業學校卒業者）
（二）別科生ハ前項以外ノ者ニシテ志願者ノ履歷ニ就キ銓衡ノ上入學ヲ許スモノトス
（三）專門部第二學年ニ編入スルニハ右第一項ノ資格ヲ有シ尙ホ第一學年ノ科目ニ付キ試驗ヲ受ケテ合格スルコトヲ要ス

一、出願手續
入學志願者ハ入學願書、履歷書、寫眞二枚（臺紙ニ貼付ナキ最近ノモノニシテ脫帽正面向額ノ長サ六分、裏面ニハ必ス姓名、生年月日ヲ記入ス）中學校其他ニ於ケル卒業成績證明書（卒業年月日ヲ明記スルコト）又檢定合格者ハ其合格證明書ヲ添附シ（入學願書及履歷書用紙ハ本大學ヨリ交付ス）左記願書受付期間內ニ教務課ニ提出スヘシ但シ期間中ト雖定員ニ滿チタルトキハ入學ヲ謝絕ス
○第一學年志願者ノ願書受付ハ二月十五日ヨリ四月八日迄每日午前十時ヨリ午後六時迄トス
入學ノ許否ハ口頭試問ノ上之ヲ決ス（口頭試問期日ハ受驗票ニ依リ之ヲ通知ス）
（第一學年志願者ハ受驗料ヲ要セス）
○第二學年編入志願者ノ願書受付ハ二月十五日ヨリ四月一日迄每日午前十時ヨリ午後六時迄トス
編入試驗志願者ハ願書提出ト同時ニ受驗料金五圓ヲ會計課ニ納入スヘシ既ニ納入シタル受驗料ハ返付セス
入學志願者ハ第一志望學科ノ外第二志望學科ヲ記載スルコトヲ得

一、編入試驗
編入試驗ハ四月四日ヨリ（午後六時ヨリ九時迄）左記科目ニ付キ之ヲ行ヒ口頭試問ノ上入學ノ許否ヲ決ス（試驗日割及口頭試問日割ハ別ニ定ム）
◎法學科　修身、法學通論、民法總論、物權法一部、債權總論、親族法、刑法總論、經濟學、論理心理、哲學概論、英語、日本法制史又ハ社會學
◎經濟學科　修身、經濟原論、經濟史、經濟地理、貨幣論、統計學、植民政策、簿記原理、法學通論、民法總則、物權法、論理心理、哲學概論、英語
◎商學科　修身、商業通論、商業簿記、商品學、經濟原論、貨幣論、統計學、經濟地理、商業英語、法學通論、民法（總則／物權）論理心理、哲學概論、英語

一、入學手續
入學ノ許可ヲ受ケタルトキハ二日以內ニ在學證（用紙ハ本大學教務課ヨリ交付ス）ニ學費（入學料金三圓、授業料第一期金三十圓）及校費（第一期金二圓）及晝間法學科ニ限リ敎練費（年額三圓五十錢）ヲ添ヘ教務課ヲ經テ會計課ニ納入スヘシ

◎授業料校費其ノ他

入學料ハ入學ノ際之ヲ納メ授業料ハ年額トシ三期ニ之ヲ納付セシム但シ月割分納ヲ許ス校費ハ授業料ニ準シ納付セシム專門部ハ當分授業料及校費ノ分納ヲ許ス
（學友會費ハ徵收セス）

部科	授業料 第一期	授業料 第二期	授業料 第三期	校費 第一期	校費 第二期	校費 第三期	（計年額）	入學料
學部	四〇圓	四〇圓	三〇圓	三圓	三圓	二圓	一一八圓	五圓
豫科	三五	三五	三〇	三	三	二	一〇八	五
專門部	三〇	三〇	一七	二	二	一、五	八二、五	三

外ニ第一豫科及晝間專門部ニ限リ敎練費年額金三圓五十錢ヲ徵ス

◎給費生、特待生、貸費生

給費生　學生生徒中學術優等品行方正ナル者ハ給費生トシテ當該學年間年額金三百圓以內ノ學費ヲ給與セラル
特待生　學生生徒中學術優等品行方正ナル者ハ特待生トシテ當該學年間授業料ヲ免除セラル
貸費生　學生生徒中學術優等品行方正ニシテ學費ノ支辨ニ困難ナル者ニハ當該學年間年額金三百圓以內ヲ貸與スルコトアリ

◎授業

四月十六日ヨリ開始ス
每日晝間部ハ午前八時ヨリ　夜間部ハ午後五時半ヨリ

昭和十三年十二月

東京市神田區駿河臺三丁目九番地
中央大學教務課
電話神田(25)三〇一五／三〇一六

東京市神田區駿河臺三丁目十一番地
中央大學豫科教務課
電話神田(25)〇〇五八

學長、理事、監事

學長　法學博士　林　賴三郎
理事　法學博士　原　嘉道
同　法學博士　土方　寧
同　法學博士　片山　義勝
同　法學博士　高窪　喜八郎
同　山田　三郎
同　田中　文藏
監事　二神　駿吉
同　有賀　光豐
同　吉益　俊次

中央大学学則：大学部大学予科専門部　1939(昭和14)年2月

中央大學記要

沿革略及學風

本大學ハ明治十八年英吉利法律學校ノ名ヲ以テ東京市神田區錦町ニ創立セラレ同二十二年十月東京法學院ト改稱シ同三十六年八月大學組織ト爲シテ東京法學院大學ト改メ同三十八年八月中央大學ト改稱ス大正九年四月大學令ニ依ル大學ト爲シ同十五年九月神田區駿河臺ノ新築校舍ニ移リ附屬圖書館ノ建築竣功シ昭和十年創立五十周年ヲ迎フルニ際シ記念大講堂新タニ成リテ設備完ク整ヒ輪奐ノ美亦備レリ創立以來五十餘年間ニ馴致セラレタル校風ハ實ニ質實剛健ノ意氣ニシテ本學ニ學フ者ハ常ニ浮華放縱ヲ戒メ輕佻詭激ヲ斥ケ淳厚中正ニ就カシム之レ吾學園ノ誇トスル所ナリ

學科及部門

學部ハ法學、經濟學及商學ノ三學部門ニ分チ、大學豫科卒業者及同資格者ヲ入學セシメ何レモ修學期間ヲ三箇年トス

大學院ハ學部卒業者ニシテ尙深遠ナル研究ヲ續ケンコトヲ欲スル者ノ爲メニ之ヲ置ク、大學豫科ハ學部ニ入ルノ階梯ニシテ第一豫科ハ中學四年修了者及同資格者ヲ入學セシメ修學期間ヲ三箇年トス英語ヲ第一外國語トスルモノヲ英語科トシ獨逸語ヲ第一外國語トスルモノヲ獨語科トス第二豫科ハ中學校卒業者及同資格者ヲ入學セシメ修學期間ヲ二箇年トス英語ヲ第一外國語トスルモノヲ英語科トシ獨逸語ヲ第一外國語トスルモノヲ獨語科トス

專門部ハ法學科、經濟學科及商學科ニ分チ各學科ニ正科、別科ノ二科アリ共ニ修學期間ヲ三箇年トス

研究科ハ專門部ノ卒業者ニシテ既修學科ニ付尙深遠ナル研究ヲ爲サントスル者ノ爲ニ之ヲ設ク

尙中等教育ヲ爲ス目的ヲ以テ商業學校(夜間四年制)ヲ附設ス

二部教授制

本學ハ夙ニ專門部ニ二部制ヲ設ケ晝間及夜間ノ授業ヲ爲シ來リシカ其ノ後社會ノ趨勢ニ鑑ミ學部及大學豫科モ晝間夜間ノ二部教授トシ、大學豫科ハ之ヲ第一豫科及第二豫科ニ分チ第一豫科ハ晝間、第二豫科ハ夜間授業トス。而シテ晝間夜間何レモ學科程度ハ勿論卒業後ノ資格特典等凡テ同等ナリトス

右ノ施設制度ハ國家文運ノ進展ニ從ヒ專門高等ノ教育ヲ受ケント欲スル者日ニ益々多キヲ加フルニ拘ハラス今日ノ教育機關ハ概ネ晝間授業ニシテ其施設亦略整ヘリト雖モ未タ以テ多數ノ志望者ヲ滿足セシムルニ足ラス又境遇上晝間一定ノ業務ニ服シ夜間學業ヲ修メムトスル有爲ノ青年ニ對シ前記ノ教育ヲ施シ得ル設備ニ至リテハ其ノ數極メテ少ク多數ノ志アル者ヲシテ進步向上ノ途ヲ遮斷スルハ洵ニ遺憾ニ耐ヘサル所ナリトス。本大學ハ夙ニ茲ニ見ル所アリ、此ノ缺陷ヲ補ハン爲夜間授業ヲ開設シ主トシテ特殊ノ境遇ニ在リテ高等教育ヲ受ケント欲スル特志ノ青年ニ對シ其ノ途ヲ開キ志ヲ成サシメンコトヲ期ス豫科ノ二部制ハ昭和四年之ヲ實施シ學部ハ同六年ヨリ之ヲ實施セリ

專門部各科ノ正科卒業者ハ學部入學ノ資格アルヲ以テ夜間學部ノ開設ニヨリ進ンテ大學教育ヲ受クルコトヲ得其便益至大ナリ

入學詮衡ノ趣旨

本大學ハ夙ニ入學試驗制度ニ伴フ教育上ノ弊害ヲ避ケ入學者ノ詮衡ハ特殊ノ檢定方法ヲ實施シツヽアリ、卽チ志願者ノ入學前ニ於ケル學業成績ト入學試驗(專門部ハ口頭試問)ノ成績トヲ併セ考査シ且ツ人物心身共ニ優良ナル者ヲ選拔シテ入學ヲ許可ス、本大學ハ多年之ヲ實行シ著々其效果ヲ收メツヽアリ

資格及特典

一、徵集延期　學部、大學豫科及專門部正科在學者ハ兵役法第四十一條ノ適用ヲ受ケ其ノ在學中(豫科專門部ハ滿二十五歲 大學ハ滿二十七歲迄)徵集ヲ延期セラル

二、兵役特典　學校教練ニ合格シタル者ハ幹部候補生出願資格ヲ有ス

三、高等試驗受驗資格　卒業者ハ高等試驗豫備試驗ヲ免除セラル、但シ專門部別科卒業者ヲ除ク

四、學士及博士　學部ヲ卒業シタル者ハ夫々法學士、經濟學士、商學士ト稱スルコトヲ得
學部卒業者大學院ニ入學シ在學二年以上ニシテ論文試驗ニ合格シタル者ニハ學位令ニ依リ夫々法學博士、經濟學博士、商學博士ノ學位ヲ授與ス
研究科ニ在學一年以上ニシテ卒業論文ニ合格シタル者ハ夫々中央大學法律學士、經濟學士、商業學士ノ稱號ヲ認許ス

五、教員免許狀

1、高等教員　學部卒業者ハ法制及經濟ニ付高等學校高等科教員無試驗檢定資格ヲ有ス(大正八年十二月文部省告示第二十四號)但シ法學部ハ財政學ヲ、經濟學部、商學部ハ行政法、親族法、相續法及刑法又ハ國際公法ヲ履修スルコトヲ要ス

2、中等教員

(イ)學部卒業者ハ公民科中等教員無試驗檢定資格ヲ有ス(明治三十六年二月文部省告示第三十號)但シ法學部ニ在リテハ倫理學(東洋、西洋)社會學、經濟政策、社會政策ヲ經濟學部ニ在リテハ倫理學(東洋、西洋)社會學、行政法(總論各論)親族法、相續法ヲ、商學部ニ在リテハ倫理學(東洋、西洋)社會學、行政法(總論各論)親族法、相續法、工業政策、社會政策ヲ履修スルコトヲ要ス

(ロ)商學部卒業者ハ商業及簿記ニ付中等教員無試驗檢定資格ヲ有ス

(ハ)豫科卒業者ハ英語ニ付中等教員無試驗檢定資格ヲ有ス

3、實業教員　專門部商學科正科卒業者ハ商事要項ニ付實業學校教員無試驗檢定資格ヲ有ス(昭和十一年六月文部省告示第五十三號)

六、計理士　經濟學部、商學部及專門部商學科正科卒業者ハ計理士無試驗詮衡資格ヲ有ス
但シ經濟學部ニ在リテハ簿記、會計學ヲ履修スルコトヲ要ス

七、學部入學資格　豫科卒業者ハ無試驗ニテ、專門部正科卒業者ハ試驗ノ上學部入學ヲ許可ス

八、文官資格　專門部別科生トシテ滿三箇年ノ課程ヲ履修シテ卒業シタル者ハ文官任用令ニ依リ無試驗ニテ判任官タル資格ヲ有ス

圖書館

本大學ニ於テハ其創立ノ當初ヨリ圖書館ノ設備ニ付キ意ヲ用ヒタルヲ以テ現在和漢洋ノ良書約十萬部ヲ備付クルコトトナレリ、加フルニ菊池、奧田、末松、岡野、穗積、村上、戶田、花井ノ各特別文庫竝米國『カーネギー』財團出版ニ係ル書籍ノ寄託ヲ受ケ居レルヲ以テ學界ニ於ケル一大權威ヲ現出シタリ、尙最新式ノ獨立圖書館ハ總坪數八百五十餘坪鐵骨鐵筋コンクリート造耐震耐火堅固無比ナル『ゴシック』樣式ニテ閲覽室其他ノ諸室ノ照明、水道、煖房、採光、通風、消毒、リフト等諸般ノ施設完備シ學生ハ毎日午前八時ヨリ午後九時ニ至ルマテ閲覽ヲ許サレ研究上至大ノ便益ヲ受ク又昭和八年十一月我國羅馬法ノ權威タル春木博士ヨリ其藏書全部ヲ購入ス其書籍ノ貴重ナル他ニ比類ナシト稱セラル

學友會

學生相互ノ親睦ヲ圖リ本大學ノ美風ヲ發揚センコトヲ期シ學友會ヲ設ケ學藝部(法學會、商學會、經濟學會、辭達學會、政治學會、英語學會、獨逸語學會、佛蘭西語學會、支那語學會、書道會等)體育部(柔道會、劍道會、相撲會、山岳會、乘馬會、ア式蹴球會、ラ式蹴球會、籠球會、競走會、弓道會、庭球會、水泳會、卓球會、射擊會、拳鬪會、スケート會等)野球部ヲ置キ學術研究及體育ノ獎勵ヲ目的トス

講座擔任表

法學部法學科　部長 法學博士 林賴三郎

科目	擔任者
修身	小林一郎、上浦種一、新田芳、高瀨久太郎
法學通論	天野德也
法制史	植木直一郎、隈崎渡、藤木邦彥、矢田一男
法律哲學	柴田甲四郎、高柳賢三
憲法	天野德也、入江俊郎、佐藤達夫、清水澄
行政法	野村淳治、宮澤俊義、山田準次郎
民法總論	中島弘道、穗積重遠、吉田久
民法物權	片山金章、黑崎定三、豐水濱雲、中島弘道
民法債權	西川一男、二上兵治、吉田久
民法債權	岩田新、村上恭一、岡村玄治、戒能通孝、須賀喜三郎
民法親族相續	青山道夫、島田鐵吉、奧田剛郎、堀內節、神原甚造、山口弘一、戒能通孝、和田于一
商法總則行爲	佐々穆、柳川昌勝、齋藤直一、高窪喜八郎、田中誠二
商法會社	片山義勝、佐々穆、田中誠二
商法手形	織田嘉七、升本重夫
商法海商	田中誠二、樋貝詮三、森清
商法保險	犬丸巖、佐々穆、三浦義道
民事訴訟法	阿部文二郎、高橋靜一、森田豐次郎、兼子一、細野長良、菊井維大、前田直之助、黑川眞前、前野順一
破產法	阿部文二郎、加藤正治、金澤潔、高橋勸
刑法	池田克、林賴三郎、草野豹一郎、平井彥三郎、久禮田益喜、泉二新熊、下村三郎、吉田常次郎
刑事訴訟法	垂水克己、林賴三郎、平井彥三郎、矢追秀作、清原邦一
刑事政策	正木亮、牧野英一
民事演習	大場茂行、吉田久、佐藤共之、西川一男、松尾實友
刑事演習	久禮田益喜、吉田常次郎、松阪廣政、三橋市太郎、三宅正太郎、矢追秀作
英吉利法	末延三次、堀江專一郎、玉井茂、二上兵治、馬場愿治、守屋善輝、土方寧、內田力藏
獨逸法	岩松三郎、寺田四郎、柴田健太郎、片山金章、花井忠、佐々穆、升本重夫、柴田甲四郎、三浦義道
經濟學	土方成美、楢崎敏雄、岩野晁次郎
經濟政策	天澤不二郎
財政學	青木得三、岩野晁次郎
國際公法	天野德也、松原一雄
國際私法	河邊久雄、佐々穆
社會學	長屋敏郎、松本潤一郎
社會政策	天澤不二郎
倫理學	鈴木由次郎、田崎繼男、高瀨久太郎
論理、心理	桂廣介、小林一郎
哲學概論	今泉三良、岩淺武雄、高瀨久太郎
英、獨、佛語	阿久津謙二、近藤綸二、田中善治郎、長谷川謙治、百瀨一、內片孫一、今泉三良、全奎弘、土肥主税、藤田通成、山口忠夫、大塚久雄、高瀨久太郎、富田熊雄、穗積重威、吉田潔、草野貞之、高宮誠、難波田春夫、前川堅市、渡邊幸吉
支那語	法本義弘
工業所有權法	吉原隆次
體操	成澤清、佐藤英雄、高木勇、樺島順吾、杉山圓太郎、佐藤英藏、宮崎忠、長峰亀四郎
教練	和田重德

經濟學部經濟學科　部長 法學博士 山崎覺次郎

科目	擔任者
修身	鈴木由次郎、高瀨久太郎
經濟原論	岩野晁次郎、丹後愛二郎、楢崎敏雄
貨幣論	丹後愛二郎、山崎覺次郎
經濟史	關山直太郎、田中善治郎、本位田祥男、長谷川謙治
經濟學史	大野信三
經濟地理	飯塚浩二、田中阿歌麿、野口保市郎
政治及外交史	川原次吉郎
統計學	竹下清松、中川友長
銀行論	丹後愛二郎、橋爪明男
植民政策	天澤不二郎、山崎馨一、柳澤愼之助
農業政策	森力、渡邊信一
商業政策	高木友三郎、楢崎敏雄
第一外國語	沖中恒幸
政治學	川原次吉郎
工業政策	小金義照
社會政策	安積得也、豐田收
簿記原理	井上達雄、金子利八郎
外國語經濟書(英、獨)	大野信三、中川重、高宮誠、大塚久雄、高宮晋、關山直太郎、川原次吉郎
經營學	杉本秋男、大越貞一
應用簿記	井上達雄、杉本秋男
配給組織論	和田清、上林正矩
交通政策	楢崎敏雄、長谷川謙治
佛蘭西語經濟書	飯塚浩二、大淵彰三
經濟演習	岩野晁次郎、丹後愛二郎、楢崎敏雄
信託論	栗栖赳夫、矢吹敏雄
財政學	岩野晁次郎、太田嘉太郎、土方成美、井藤半彌
會計學原論	太田哲三、杉本秋男
國際經濟及金融論	大野信三
證券及ヒ證券取引所論	上林正矩
市場論	和田清
外國爲替關稅	和田清
農村問題及ヒ產業組合論	小濱八彌、森力
保險學	石川文吾、三浦義道
經濟事情	小林茂、大野信三
經濟財政時事研究	太田正孝
國際公法	天野德也、松原一雄
國際私法	河邊久雄、佐々穆
法學通論	柴田甲四郎
憲法	入江俊郎、清水澄、天野德也
行政法	田上穰治、野村淳治、宮澤俊義、山田準次郎
民法總則、物權、債權	片山金章、柴田甲四郎、柳川昌勝、小林俊三
民法親族相續	島田鐵吉、戒能通孝、山口弘一、和田于一
商法	栗栖赳夫、森清、佐々穆、中村武、西本辰之助
刑法	久禮田益喜、花井忠
社會學	高宮誠、長屋敏郎
論理、心理	小林一郎
倫理學	鈴木由次郎、高瀨久太郎、田崎繼男
哲學概論	小林高記、田崎繼男、長屋敏郎、波多野完治
英、獨、佛語	五十嵐喬、高宮誠、藤田通成、大越貞一、大淵彰三、難波田春夫、百瀨一、草野貞之、波多野完治、山口忠夫、田中善治郎、長谷川謙治、渡邊幸吉
支那語	法本義弘
工業所有權法	吉原隆次
工業概論	山內不二雄
教練	和田重德

商學部商學科　部長 商學博士 吉田良三

科目	擔任者
修身	小林一郎、鈴木由次郎、高瀨久太郎
商業通論	和田清
商業實務及珠算	川村貫治、三輪末彥、和田清
貨幣論	丹後愛二郎
簿記原理	金子利八郎
商業簿記	井上達雄、柳澤豐勝
商業數學	伊藤春三
商業算術	井上達雄
商品學	柳川昇
配給組織論	和田清、上林正矩
經濟地理	飯塚浩二、田中阿歌麿、野口保市郎
商業史	五十嵐喬、長谷川謙治
經濟原論	大野信三、中川重
統計學	竹下清松、中川友長、柳澤豐勝
植民政策	山崎馨一、柳澤愼之助
會計學原論	太田哲三、杉本秋男
銀行會計	太田哲三
銀行簿記	柳澤豐勝
銀行論	丹後愛二郎、橋爪明男
經濟事情	沖中恒幸、小林茂、大野信三
外國爲替關稅	和田清
經營學	大越貞一、杉本秋男
倉庫經營論	大住達雄
商業政策	楢崎敏雄、高木友三郎
商業演習	上林正矩、杉本秋男
商業事情	五十嵐喬、沖中恒幸、上林正矩、根岸信
廣告論	野元伊太郎
景氣變動論	柳澤豐勝
工業政策社會政策	安積得也、小金義照、豐田收
財政學	青木得三、岩野晁次郎
交通政策	楢崎敏雄、長谷川謙治
保險學	三浦義道
取引所論	上林正矩
證券市場論	上林正矩
應用簿記	杉本秋男
信託論	栗栖赳夫、矢吹敏雄
原價計算及監查	吉田良三
證券及ヒ證券取引所論	上林正矩
國際經濟及金融論	大野信三
外國語經濟書(獨、佛)	飯塚浩二、高宮晋、大野信三、大塚久雄、大淵彰三、三輪末彥
經濟史	大淵彰三、本位田祥男
國際公法	天野德也、松原一雄
國際私法	佐々穆
經濟財政時事研究	太田正孝
法學通論	石原雅二郎
憲法	入江俊郎、清水澄、天野德也
民法總則、物權、債權	岩田新、片山金章、柴田甲四郎、藤江忠二郎
民法親族相續	戒能通孝、島田鐵吉、山口弘一、和田于一
商法	栗栖赳夫、森清、佐々穆、中村武、西本辰之助
行政法	野村淳治、宮澤俊義、山田準次郎
刑法	久禮田益喜、花井忠
破產法	阿部文二郎、高橋勸
論理、心理	高瀨久太郎
倫理學	鈴木由次郎、高瀨久太郎、田崎繼男
哲學概論	長屋敏郎、波多野完治
社會學	高宮誠、長屋敏郎
教育學	阿部重孝、石三次郎
教授法	石三次郎
商業英語	三輪末彥、渡邊幸吉、石川文吾
英、獨、佛語	五十嵐喬、高宮誠、山口忠夫、大塚久雄、難波田春夫、渡邊幸吉、大淵彰三、三輪末彥、草野貞之、百瀨一
支那語	法本義弘
工業所有權法	吉原隆次
工業概論	山內不二雄
タイプライター	中島五郎
教練	和田重德

大學豫科　豫科長 文學士 森田實

科目	擔任者
修身	深作安文、新田芳
國語	飯田豐、立花親民、大場俊助、釘本久春
漢文	佐々木菊若、寺內淳二郎、大谷湖峰、布施欽吾
英語	阿久津謙二、玉井茂、野村三郎、中川重、加藤猛夫、三輪末彥、グラント、竹村胤昌、須田滋、內藤修一郎、藤田通成、森力、篠窪貢亮、根本剛、廣橋浩
獨逸語	片山金章、橋本忠夫、角信雄、ベツオルド、田中康一、三浦吉兵衛、富田熊雄
佛蘭西語	草野貞之、內藤濯、前川堅市
歷史	竹村昌次、堀竹雄、森田實、丹波鴻一郎
地理	野口保市郎
心理	桂廣介、松宮周郎
論理	桂廣介、松宮周郎
哲學概論	小林一郎
數學	橋本喜治、渡邊重勝
自然科學	立田鐵二
法學通論	天野德也
經濟通論	松浦要
體操	出羽重三、島津隆、中島春吉、橋立米市
教練	服部敬三

20051956

中央大学学則：大学部大学予科専門部　1939(昭和14)年2月